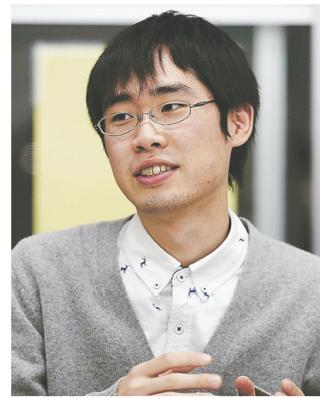


# いのちと地域を守る



【要援護者の所在確認】お年寄りや体の不自由な人がどこにいるか、自分のできる範囲で把握しておきたい。町内会などを通じて接点をつくるのではなくいか。

＝1年・高橋祐瑞さん(20)



【要援護者の所在確認】中学校の避難訓練では、自宅から学校に向かう途中、お年寄りの世帯を訪ね、「大丈夫ですか」と声掛けした。安否確認の訓練になつた。

＝2年・庄司晴香さん(19)



【要援護者の所在確認】子どものころは地域のお祭りが、近所のお年寄りと話したり、遊んだりする機会になつた。お互いに顔が分かり、震災時もつながりが復に立つたと思う。

＝4年・玉崎涉さん(26)



【普段の交流について】私の住む地域では、地区ごとにチームをつくり運動会に参加していく子どもから大人お年寄りまで縦のつながりがあり、近所の人の顔を知る良い機会だった。

＝1年・伊藤麻沙さん(19)



【普段の交流について】お祭りなど地域の行事のときに、オリジナルの歌や踊りをみんなで教えて披露してはどうか。自然にコミュニケーションが取れて信頼関係を築けるのではないか。

＝1年・中里大輔さん(19)



【普段の交流について】冬に自家前や近所の道路を雪がさしていると、近所の人が出できて「ありがとうございます」と言つてくれる。私も喜んで大変さを認識した。簡単なことなのに、気が付いていないことがたくさんある。

＝1年・増田美鈴さん(19)



【参加して】聴覚障害者は、停電で真っ暗闇の中では自分が見えず、何も頼れないという話を聞き、あらためて大変さを認識した。簡単なことなのに、気が付いていないことがたくさんある。

＝1年・佐藤隆志さん(19)

## ■ むすび塾に参加して

名取・尚絅学院大

東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は地域住民などと一緒に地震・津波に備える巡回ワークショップ「むすび塾」を開いています。名称には、地域と人、人と人のつながりを強め、防災・減災に結び付けているとの思いを込めました。

次回の「むすび塾」は24日、仙台市宮城野区の南浦生町内会で開催される。

# 日頃の交流 自立手助け



名取市内の仮設住宅の集会場で、被災者との交流イベントに参加する尚絅学院大の学生たち(中央奥)=2014年8月

## 仮設でボランティア

被災を受けた沿岸部の民家の泥のかき出しや、支援物資の仕分けなどに携わった。避難所の開設後は仮設住宅での被災者支援に力を入れている。

尚絅学院大の学生有志は震災以降、名取市を拠点に復旧、復興のボランティア活動を続けていた。発生直後は社会福祉協議会と連携して、津波被災を受けた沿岸部の民家の泥のかき出しや、支援物資の仕分けなどに携わった。避難所の開設後は仮設住宅での被災者支援に力を入れている。

尚絅学院大は2012年6月、被災者への長期的な支援や支援する人材の育成を目的に、学内にボランティアチームをつくり、活動の中心的な役割を担っている。学生たちは仮設住宅で交流イベントを開催し、住民と親睦を深めてきた。

## 学生、継続的な支援策探る

大輪賀の佐々木真理さん(43)は「学生たちは、被災地にある大学だからこそ、継続できる活動を目指している。地道な活動で課題も多いが、被災者の気持ちに寄り添い、笑顔や喜び、学習につなげたい」と話している。

仮設住宅の住民は、災害公営住宅などの次の住まいに転居する時期に差し掛かっている。学生たちは現在今後の活動の在り方を模索している。

ボランティアステーションを担当する尚絅学院大職員の佐々木真理さんは、「学生たちは、被災地の教訓を教えてください」と話している。学生たちは、被災地における大学だからこそ、継続できる活動を目指している。地道な活動で課題も多いが、被災者の気持ちに寄り添い、笑顔や喜び、学習につなげたい」と話している。

## 学生自らが防災・減災の勉強会を企画しよう



## 長期テーマ掲げ経年調査を

20年後を見据え、継続的な調査に取り組むのもいい。定期的に同じテーマで被災者から聞き取りし、意識の経年変化を追う。対象をお年寄りや若年層、事業所に分類する。調べた学生が論文をまとめ、後輩が引き継げば、数十年後に貴重な記録が出来上がる。

阪神大震災や新潟県中越地震の被災地でも「復興感」をテーマに意識の変化を調べ続けているが、まだ手探りの状態。ぜひ検討してほしい。

減災・復興支援機構理事長  
木村 拓郎さん

自分たちが住む地域、通っている学校やその周辺に潜むする災害リスクを知ることが防災・減災への第一歩となる。特に被災者への支援方法一つ取つても奥が深い。地域のお年寄りや外国人とのコミュニケーションの取り方など、学びたことをリストアップし、勉強会を企画してはどうだろか。

